

こどもの日

5月5日は子供の日。特に男の子は五月五日の端午の節句（＝たngoのせっく）に、子供の幸せを祈り健やかな成長を祈る儀式をします。

1948年より祝日法2条で

「**こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する**」
と制定されました。



1. 端午の節句（菖蒲の節句）とは・端午の節句の由来と意味

5月5日はこの五節句のうちの一つで、もともとは5月の最初の午の日をさし（端は、ものごとの端（はし、先端、はじまり）を意味します。端午というのは、はじめの午ということです）、中国で蓬や菖蒲を用いて邪気を祓ったのが始まりとされています。

のちに、鎌倉時代頃から菖蒲が尚武と同じ読みであることなどから男の子の成長を祈る儀式へと変化してきました。

現代では、端午の節句には、粽（ちまき）や柏餅を食べ、鯉のぼりや武者人形などを飾ります。鯉幟（こいのぼり）は、江戸時代に始まった習慣で、古来中国より「立身出世の象徴」として考えられて来た鯉の滝登りにちなみ、男の子の立身出世を願って庭先に飾られるようになりました。

2. 子供の日（端午の節句）のお祝いのしかた

鯉幟（こいのぼり）

「鯉の滝昇り」がたくましく苦難を乗り越えて出世していくことにつながることから、武家の男児のお祝いに好んで使われるようになりました。

鯉のぼりの一番上につける「吹き流し」の五色は、**緑（青）＝木、赤＝火、黄＝土、白＝金・金属、黒＝水**を表わし、この世に存在するすべてのものは、木、火、土、金（金属）、水の5つから成り立つという思想に基づくと言われていています。この5つを「五行」と呼び、これら5つの力が合わさることで邪気を祓うという信仰があります。

江戸幕府が5月5日を五節句のひとつとしてお祝いの日と定めてからは、武家では男の子が生まれると幟をたてて周囲に男児誕生を知らせるようになりました。

これらのお祝いの儀式が庶民へと伝わり、現在の鯉のぼりの様式になったと言われていています。



～鯉のぼりの移り変わりと色の意味～

現在の鯉のぼりは「**真鯉＝父親、緋鯉＝母親、青い鯉＝子供**」の3匹が一般的ですが、江戸時代には真鯉だけだったそうです。緋鯉は、錦鯉を模したものと言われており錦鯉が出回りだした明治時代から出始めました。ただ…当時の緋鯉は子供を表していました。青色の鯉が子供で、赤色の緋鯉が母親を表すようになったのは昭和に入ってからのことです。

「**真鯉＝黒、緋鯉＝赤、子供の鯉＝青**」がおなじみですが、それぞれの色には、吹流しと同じように陰陽五行説からの流れがあります。

真鯉＝黒＝父親

黒は、冬で水を表しています。

五行説での冬は、堅く閉ざされた季節であり、生物のほとんどが活動を停止する時期でもあります。

加えて水は、全ての生物の命の源であり、必要不可欠なものです。

黙って座っているだけで、存在感がありちょっとしたことで動じずに、どっしりと構えている。

家族の大黒柱である、古き時代のお父さんを表しています。

緋鯉＝赤＝母親

赤は、夏で火を表します。

夏は、たくさんの生命を育む季節です。

また、人間は火を手に入れることで知恵を得て、文明を築きだしたと言われてるように火は、万物を生み出す源であり、知恵を象徴するものです。

子供を産み育てつつ家庭をしっかり守る。生活の知恵がたくさん詰まった、温かい日本のお母さんそのものです。

子供の鯉＝青＝子供

青は、春で木を表します。

春は、全ての生命がのびのびと活動を始める季節です。草は芽吹き、木もすくすくと育っていきます。

すくすくと真っ直ぐ伸びていく木は、子供の成長やあるべき姿そのものを表しています。

鎧・兜（よろい・かぶと）

武家を中心に広まって来た端午の節句の儀式。

男の子に強く逞しく育ってほしいという願いと、厄災から男の子を守って欲しいという願いから、鎧や兜などの武具も一緒に飾るようになりました。

庶民宅では、紙製の武具や、人形、絵などを飾るようになったのが今の五月人形のはじまりとされています。



鐘馗様（しょうきさま）

鐘馗（しょうき）様は、病魔を祓い男の子が健やかに育つようにという願いをこめてかざります。

もともと鐘馗様は中国から伝わった神様です。かつて玄宗皇帝がマラリアにかかり死の淵をさまよったときに、夢の中で恐ろしい顔の大男が病の悪魔達を退治し、命を救ってくれました。皇帝が大男に名を尋ねると、自分はかつて官僚登用試験に落ちて自殺した鐘馗（しょうき）という者で、手厚く葬ってくれた恩に報いる為にあなたを救ったと言いました。夢から醒めた玄宗皇帝は、夢で見た鐘馗（しょうき）の姿を絵に表わし、厄災、邪気を祓う力があるとして国中にひろめたとのこと。

これが日本に伝わって男の子の無事な成長を祈る端午の節句に飾られるようになりました。

ちなみに、戦国武将の前田利家なども、鐘馗様を旗印にしたり陣羽織に用いたそうです。



菖蒲湯（しょうぶゆ）

菖蒲の葉には邪気を祓う力があるとされ、端午の節句の日に菖蒲の葉を（一部の地域では根も用いる）入れて湯をわかして入浴します。葉には強い香りがあるため、この香りが邪気を祓うという説もあります。

菖蒲の葉から抽出されるオイルには、血行促進効果があるとされています。



菖蒲かざり

菖蒲の葉やよもぎの葉を結んだものを軒下につるすのは、菖蒲には邪気を祓う力があるとされているからです。

枕の下に敷いて寝るといふ地方もあるようです。



粽（ちまき）

粽（＝ちまき）は、中国から平安時代に日本に伝わりました。中国では、5月5日は屈原（＝くつげん。紀元前300年頃の政治家であり詩人）が入水自殺をした命日とされ、この日に彼を供養するために粽（ちまき）の原形となる食品が川に投げ込まれるようになったのが端午の節句にちまきを食べる由来とされています。

現在日本で、地方によって形状も中身もさまざま、おにぎりのような三角形のものから、細長い形状にして数本を束ねて売っているものもあります。餡を入れたりした甘いものもあれば、もち米の味だけのものもあります。もともとは、餅米を植物の葉や皮で包み灰汁で煮ることにより保存食としたものだそうです。



柏餅

柏の葉は、次の新芽が出るまで落ちないことから、家督が絶えないことの象徴とされ、武家にとっては縁起の良いものと考えられてきました。



3. 当院の子供の日

当院のこどもの日は、「鯉の滝昇り」の様にたくましく苦難を乗り越えて（病気に勝って）退院して頂けるようお願いを込めて、こいのぼりの和菓子を献立に加えました。



患者様からのご感想

- ・ 節句の日の気遣いありがたくいただきました。病室の窓から外を見ても鯉のぼりなど1尾も上がっていませんでした。寂しく思いましたが、お祭りの神輿が出ていました。
- ・ お菓子の鯉のぼり可愛いですね。入院していても節句の雰囲気味わえて嬉しいです。
- ・ 入院していると祝日も連休も関係なく時計の針が進んでいるだけの1日1日ですが、5月5日の思い出がよみがえって参りました。鯉のぼりの歌まで聞こえてきそうです。